

介護ニーズ最前線

団塊の世代を知る

阪本 節郎

人生100年時代 未来ビジョン研究所 所長

第5回

# 革新性と封建性が共存する 団塊世代



さかもと・せつお ● 1975年早稲田大学商学部卒。株博報堂入社。プロモーション企画実務、研究開発に従事の後、企業のソーシャルマーケティング開発を推進。2000年にエルター・ビジネス推進室、11年に新しい大人文化研究所を設立。さらに、19年に独立し当研究所を創設。現在、所長。著書：『50歳を超えたらもう年をとらない46の法則』(講談社+α新書)、『シニアマーケティングはなぜうまくいかないのか? 新しい大人消費が日本を動かす』(日経新聞出版社、韓国版、台湾版、他)

今後利用者として「団塊の世代」が激増していくなか、新たな高齢者像を知り、介護ニーズを理解するため、団塊の世代の実情や志向、団塊の世代がもたらす介護現場への影響について解説します。

## 時代の変わり目だった

### 団塊世代

団塊の世代はまさに時代の変わり目にいたということができません。今では若者の光景としてミニスカート・ジーンズ姿や男の長髪は当たり前になっていますが、団塊の世代以前にはまったく見ることのなかったものです。ポップスやロックが音楽の主流になるというのも団塊の世代からで、それまでは歌謡曲・演歌が主流でした。1960年代後半でしたが、社会の風景が一変しました。これを可能にしたのは団塊世代の数の力で

す。それまでにない新しいスタイルを持つ大量の若者によって大きく変わったのです。

それは団塊世代の「革新性」を象徴しています。ただ、団塊の世代は革新性というプラスの面だけではなく、前世代のマイナス面をそのまま受け継いだ面もあります。それが団塊世代の「封建性」です。

当時の日本は戦後民主主義といわれて久しかったにもかかわらず、日本的一家父長制や滅私奉公で会社に尽くすということが色濃く残っていました。父親が家長で、母親をはじめとしたそのほかの家族はそれに従わなければならない

とか、上司の命令は絶対、といったことです。そうした相矛盾する

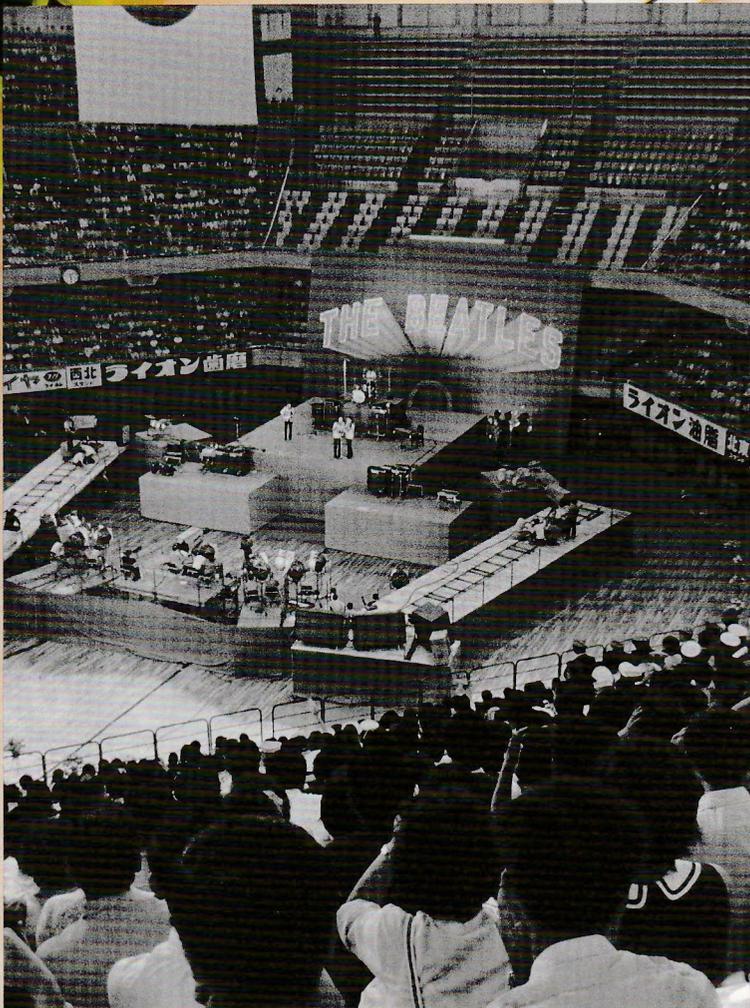
「革新性」と「封建性」が同居しているのが団塊世代だといえます。たとえば、口では男女平等を言いつつ、実は男尊女卑ととれる行動をしているというようなことです。

痛みより自分の主張」といったところでは

第2回でも触れた「団塊のあとにはペンペン草も生えない」ということが多くの企業、とくに後輩や部下にあたる人たちから語られました。そこにあつたのが、パワハラ、セクハラです。それは悲痛的な叫びといってもいいぐらいのこととがありました。もちろん団塊のすべての人たちがそのようなことをしたわけではありませんが、団塊世代が働いていた頃には、程度の差こそあれ、パワハラ・セクハラは多くの企業で日常的なことでして横行しがちでした。それは売上目標というような大きなプレッ

## 封建的な団塊世代

団塊世代の「封建性」がどういうところにあられるかというところ、たとえば、「男尊女卑」のほかに「上から目線」、「(男性の)女性好き」、「言いたい放題」、「人の



ザ・ビートルズの日本公演 毎日新聞社提供

シャワーがあったから起こったともいえます。部下や後輩だけでなく、サポートする外部の会社に対しては下請けとして、より一層パワハラがひどかった面もあります。介護施設においては、売り上げ目標というようなプレッシャーが利用者本人にかかってくるわけにはないので、それほどひどい話にはならないと思われませんが、ただ、事業者や職員に対する「上から目

線「下請け扱い」というようなことが起こる可能性はあります。介護職員、とりわけ若い職員に対するパワハラです。それに加えて男性利用者にがちなのは、セクハラです。一連の若者文化のなかで起こったのがフリーセックスであり、これがタガをはずしてしまい、日本人のなかで特にラテン男性のような志向性を持つのも団塊男性です。

## 革新的な団塊世代

一方の「革新性」はどうかというところ、さきほど述べた「ミニスカート・ジーンズ・男の長髪」、「ロック・ポップス」、「男性化粧品」、「若者向け週刊誌」、「あこがれとしてのスポーツカー」、「若者の流行・ファッション」、「ファーストフード」、「コンビ」など、今日われわれが比較的当たり前のこととして接していることの第一世代が団塊世代およびその次のポスト団塊世代だといえます。

さらに団塊世代は結婚したての30歳前後頃には「ニューファミリー」と呼ばれ、「スニーカーミドル」と呼ばれたりもしました。そのころを代表するのが、乗用車としての「ワゴン・ミニバン」の登場であり、サラ

リーマンとして「グルメ」第一世代でもありました。

## 革新性と封建性の同居する 団塊世代への対応法

この多少わかり難い団塊世代にどう対応したらいいのでしょうか。

まず必要なことは、「パワハラ・セクハラ対策」です。今までの利用者者は基本的には「良きお年寄り」だったと思われれます。お年寄りらしい頑固さや意固地さに悩まされるということとはあつたと思えますが、団塊世代の場合は古き時代の良きお年寄りが基本的にはいなくあります。入所前の説明でまず「パワハラ・セクハラ防止」について十分に理解を得ておくことがポイントだと思われれます。そのうえで職員に対するマニュアル等を整備し、研修等もしておいたほうがいいといえるでしょう。

その一方で、先の号でも触れましたが、団塊の世代は「革新性」に対して持ち上げてあげると協力的にもなるといえます。いかに協力的な行動を引き出すことができるか、そこが考えどころといえるでしょう。